

●6年制学科のカリキュラムの特色

本学は全国に先駆けて対話演習を取り入れる等、コミュニケーション教育に力を入れてきました。特に、1年次の導入教育から問題解決能力醸成のための小グループ討議を積極的に行っています。1年後期のサイエンスコミュニケーションでは、本学教員が開発した「構造式のUNOカード」(特許取得済)を使ったゲーム感覚のグループワークを取り入れ、化学を楽しく学んでいます。また、チーム基盤型学修を低学年から導入し、チームの中での自分の役割や責任を自覚する機会も設けています。3年次の臨床コミュニケーション演習では、全国的にも有名な岡山SP研究会の協力を得て模擬患者(SP)との医療面接を行っており、患者さんに関わっていくことを具体的に考えるための良い機会としています。さらに、豊富な臨床経験をもつ実務家教員を配した臨床薬学教育研究センターが中心となって4年次の実務実習事前学習を行い、5年次の長期実務実習に臨んでいます。実務実習の直前には全教員が関わり、患者シナリオに基づく統合演習も行っており、小グループで1つの症例に取り組んで最適なケアプランを作成し発表しています。最終学年には、卒業研究の総仕上げである発表会や、全教員が担当する卒業特別講義が配置され、6年間の学修の総復習を行っています。その他、2019年8月には、「地域の医療に貢献できる薬局」であり、地域の人々と一緒に「学べる薬局」として中四国初となる学部附属薬局が開局しました。「全ての学年で必ず薬局に関わる教育活動を行う」を目標に、講義で学習したことを薬局で実習し、臨床現場で役に立つ「実地有用」な人材育成を実践しています。さらに、文部科学省令和3年度大学改革推進等補助金「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人養成事業」に採択され、オンライン服薬指導システムが導入されました。附属薬局を拠点としてDX技術を活用した発展的教育活動や大学との双方向学習によって、対面とオンラインといずれにも精通した人材の育成を推進します。

●病院や薬局の実務実習 特色や取り組み

医療の現場において、薬剤師だけでなく医師や看護師といった医療スタッフ、患者さんとの触れ合い、また、地域における薬剤師の役割などについて実習・実践を通じて体験します。岡山県内の病院実習では、岡山独自のグループ実習(様々な特徴を有する複数の病院での実習)を実施しています。また、中四国、近畿及び九州

地区などでふるさと実習も行っています。1人の学生に対して実習期間中3回以上の実習施設訪問を行い、学生や指導薬剤師と面談して実習進捗状況を確認するなど、教員全身体制で丁寧な実習指導を行なっています。さらに、すべての実習施設とリアルタイムな情報交換が可能なWebシステムを導入し、担当教員は日々の日誌を確認すると共に週の振り返りではコメントを記入する等、各学生に適した充実した実務実習となるように万全なサポート体制をとっています。

●病院実習先・薬局実習先

主な病院・診療所 岡山医療センター、岡山市民病院、岡山済生会総合病院、心臓病センター、神原病院、川崎医科大学附属病院、岡山赤十字病院、岡山労災病院、総合病院岡山協立病院、倉敷中央病院、川崎医科大学総合医療センター、倉敷成人病センター、津山中央病院、岡山旭東病院、尾道総合病院、岩国医療センター等、調整機構により実習先を確保 37カ所
主な保険薬局 マスカット薬局、ユーカリ薬局、肥後薬局、赤松薬局、いずし薬局、クリア薬局、おかやま薬局、サンヨー薬局、虹いろ薬局、サカエ薬局、くすりのラブ薬局、ハロー薬局、ソーク薬局、マツモトキヨシ、あかり薬局、コーモト薬局、虹の薬局、就実大学薬学部附属薬局、ブルークロス薬局、ゴダイ薬局、スター薬局等、調整機構により実習先を確保 46カ所

●アドバンスト(臨床)実習

2年次～5年次までの期間に、興味のある領域や目指す進路に応じて自分の学びたいアドバンスト科目を自由に選択します。必修の科目で学ぶ基礎知識を元に専門的・実践的内容を学び、長期実務実習に臨むモチベーションや新薬研究開発への興味を高め、大学の基礎教育と臨床現場との間をつなぐという重要な位置づけにある科目群です。創薬化学、細胞工学、生体機能調節学、ゲノム科学といった基礎専門的科目、感染症予防学、未病薬学、漢方薬学、化粧品科学、フィジカルアセスメントといった応用的科目等、幅広い領域をカバーする数多くの科目が開講されていま

す。また、専門薬剤師概論では臨床現場で活躍する各種の専門薬剤師を取得した先生方を講師に招いて、各自が希望する将来像を思い描けるような講義が提供されます。薬剤師と地域医療では、地域における薬剤師の役割について希望に応じて学外授業を行うなど実践力を重視した教育を行っています。コロナ禍での中断を経て新たな提携先であるアデレード大学(オーストラリア)において実施予定である薬学海外研修では、夏期休暇の約2週間を利用してホームステイをしながら語学研修を受講すると共に、海外での薬局や病院の薬剤師や医療情勢について体験的に学びます。このような様々なアドバンスト科目の中から自由に選択して、一人ひとりのオリジナルカリキュラムとして受講します。

●多職種連携教育の具体的な内容

1年生の入学直後から5年生の長期実務実習まで、各学年ごと段階的に多職種連携について学習しています。入学後の早期に実施される「薬学への招待」では、卒業生による現役薬剤師としての日々の業務に関する講演の中で、多職種と関わりながらチーム医療の一員としての薬剤師の役割について学んだり、早期臨床体験として実際に病院や薬局を訪問することで、薬剤師が多職種と連携しながら患者さんや地域の医療に貢献していることを学んでいます。さらに、3年次の「薬局管理学演習」では、病院内や地域におけるチーム医療について学習し、学習した内容を附属薬局への学外授業にて確認しています。また、「臨床コミュニケーション演習」では模擬患者との対話を通して、医師への薬物治療に関するケアプランを作成する演習も行っています。4年次の「臨床薬学総合演習」、「薬剤師職能論」では、医療の現状を踏まえた薬剤師の位置づけと役割を少人数グループで討議したり、外部講師による各現場での実例によって、多職種連携についてさらに具体的に学んでいます。並行して行われる実務実習事前学習では学修の総括として「薬学統合演習」を行っており、この演習では患者シナリオに基づいてファーマシューティカルケアプランを作成したり、現役の医師を招いてフィジカルアセスメントを通じた医師及び看護師との連携

を演習形式で学習したり、多面的にチーム医療について学修しています。その後の長期実務実習では、実臨床の場での多職種連携を体験し、チーム医療の中での薬剤師の役割や業務を理解・体得しています。的にチーム医療について学修しています。その後の長期実務実習では、実臨床の場での多職種連携を体験し、その中での薬剤師の役割や業務を理解・体得しています。

●多職種連携教育を行う医療施設名

病院:岡山医療センター、岡山市民病院、岡山済生会総合病院、川崎医科大学附属病院、岡山赤十字病院、岡山労災病院、岡山協立病院、倉敷中央病院、川崎医科大学総合医療センター、倉敷成人病センター、津山中央病院、岡山旭東病院 他

薬局:サンヨー薬局、ユーカリ薬局、E薬局、赤松薬局、クリア薬局、おかやま薬局、ひかり薬局、虹いろ薬局、サカエ薬局、くすりのラブ薬局、アイビー薬局、ザグザグ薬局、あかり薬局、コーモト薬局 他

●薬剤師国家試験への取り組み

就実大学では、少人数担任制で個々の学生をサポートすると同時に、委員会体制で学年に応じた充実したサポートをしています。1年次～3年次までは学修支援委員会及び学修支援センターが中心となり、高校で学ばなかった科目や苦手科目の補習を集中的に行っています。さらに、勉強法のガイダンスや個別面談、質問会を開催し、特に初年次でのつまづきを防ぐための学修支援を強化しています。2年次～3年次では、新年度開始時に学年別総合実力テストを実施し、前年度に学修した教科についての総合的な学力到達度を計っています。3年次から4年次にかけてはCBT関連委員会が中心となり、CBT対策勉強会や補講を実施して共用試験に備えると同時に、特に物理・化学・生物に関する基礎学力を固めます。5年次～6年次は国家試験対策委員会が中心となって蓄積されたノウハウに基づいて、年間スケジュールをしっかりと組んで対策しています。5年次には基礎科目を中心とした講習会を開催し、6年次には前期、夏期、秋期、冬期、直前の強化勉強会を土曜日を活用して開講しています。また、年間8回程度の全国模擬試験を実施して実力アップを図り、目標達成度の低い学生には個別指導で学力の強化を図っています。さらに6年次には卒業関連委員会が中心となって、本学全教員

による卒業特別講義を実施して6年間の総復習を行っています。このような手厚いサポートを行っています。

●卒業研究について

6年制 4年次開始時に研究室配属を行っています。学生の希望に基づく研究室への配属となり、卒業研究に取り組みます。卒業研究では、調査・実験・セミナー等を通して問題発見・問題解決能力の醸成を図ります。それと同時に、4～6年生という3学年が一同に会することで、上級生から下級生へ実験の手技や論文の読み方などのスキルが伝えられていき、学年間を超えた交流も生まれています。さらに、学生への学会発表を奨励するため、旅費・学会参加費の補助金制度もあり、多くの学生が研究成果を学会発表しています。特に、日本薬学会中国四国支部大会では毎年数名が学生奨励賞を受賞しています。6年次の8月には卒業研究の集大成として「卒業特別研究発表会」があり、全員がポスター発表を行う中で、学生同士、または教員との活発な議論が行われます。

●入試の変更点

共通テスト利用選抜Aの選考方法:選考方法に「調査書(参考程度)」を追加

共通テスト利用選抜A・Bの配点:英語のリディングとリスニングの配点比率を4:1に変更

●入試に合格するためのアドバイス

本学部では、学力の要素を身につけていることを測る多様な5種類の選抜を行っています(詳細は募集要項をご覧ください)。

1. 総合型選抜(基礎学力型):適性検査・調査書・志望理由書・面接
 2. 学校推薦選抜(基礎学力型):適性検査・調査書
 3. 学校推薦選抜(小論文型):小論文・調査書・面接
 4. 一般選抜:外国語・理科 / 理科・外国語もしくは数学
 5. 共通テスト利用選抜:調査書を含む
- 各選抜の特徴を知り自分の得意分野を活かせる選抜を利用して、受験をしてください。また、学校推薦選抜(基礎学力型)、一般選抜においては、特待生制度(全額・半額・30%の3種類の授業料免除制度)も設けていますので、是非、チャレンジしてください。
- 入学後は、有機化学・物理化学・生物が重要となりますので、高校で学習できる科目はしっかりと勉強してください。

●入試に面接を課すとき、主な質問内容やアドバイスを教えてください。

本学部へ入学したいという強い意志や薬学部で頑張る意欲を測ります。また、主体的に学習に取り組む態度が身につけているか、協働して取り組む力をもっているかに関係する質問をします。同時に、コミュニケーション能力や態度について評価します。面接では緊張すると思いますが、安心して臨んでください。

●入試に小論文を課すとき、これまで出題したテーマをいくつか教えてください。

学校推薦選抜(小論文型)では、科学的知識や思考力を問う課題を出題します。同時に、表現力や、適切で論理性のある文章を正しく書くことのできる力も測ります。

【出題例】似たような薬の構造式を示し、その側鎖の違いから作用の違いが生じることを理解し、新しい薬の創薬へつながる発想について論述する小論文課題が出題されています。

●大学独自の奨学金制度

経済修学支援奨学金 若干名 授業765,000円(減免)

海外留学支援奨学金 若干名 30万円以内

HPのURLはこちらです。
<https://www.shujitsu.ac.jp/campuslife/hougakukin/>

●地域のアパート・マンションのモデル家賃

一人暮らし

本学周辺 家賃39,000円程度

岡山駅周辺 家賃50,000円程度

本学指定学生寮(学生会館)・指定学生マンションもご紹介します。詳細は、こちらをご参照ください。

<https://www.shujitsu.ac.jp/campuslife/hitei/>

●オープンキャンパスの日程

オープンキャンパス2023

2023年6月18日 7月15日～16日

8月19日～20日

春のオープンキャンパス 2024年3月9日

学科ガイダンス、ゼミ体験学科相談、ミニ講義、施設見学、在学生との懇談、

スタンプラリー抽選会、クラブ・サークル紹介・展示コーナー等

(すべて来場型で開催予定)

●地域のアパート・マンションのモデル

家賃

一人暮らし

本学周辺 家賃35,000円程度

岡山駅周辺 家賃40,000円程度

本学指定学生寮(学生会館)・指定学生マンションもございます。詳細は、こちらをご参照ください。

<https://www.shujitsu.ac.jp/campuslife/sहितei/>

●オープンキャンパスの日程

○オープンキャンパス2022

日程:2022年6月19日、2022年7月16日～17日、2022年8月20日～21日

○春のオープンキャンパス

日程:2023年3月11日

内容:学科相談、ミニ講義、施設見学、在学生との懇談等

すべてハイブリッド型(来場型×オンラインライブ配信型)で実施

※最新情報は本学HPを必ずご確認ください。